

# 第7回

## '96選抜女子駅伝 北九州大会

- 期 日 / 1996年1月21日 (日)
- コース / 小倉北区・北九州市役所前—  
八幡西区・北九州プリンスホテル折り返し  
折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

### 順位

#### 一般・大学の部

- 1 沖電気宮崎(宮崎) ◎1°43'49"
- 2 日本生命(大阪) 1°47'08"
- 3 岩田屋(福岡) 1°47'23"
- 4 天満屋(岡山) 1°47'31"
- 5 ニココドー(熊本) 1°48'13"
- 6 九電工(福岡) 1°49'25"
- 7 丸久(山口) 1°49'56"
- 8 鐘紡(山口) 1°50'05"
- 9 TOTO(福岡) 1°50'10"
- 10 十八銀行(長崎) 1°51'56"
- 11 ベスト電器(福岡) 1°52'57"
- 12 NEC九州(熊本) 1°54'41"
- 13 九州女子大学(福岡) 1°59'21"

#### 区間賞

- 第1区(4.5km) 浦 紀子(十八銀行) ★13'26"
  - 第2区(5.9km) 岡本 幸子(沖電気宮崎) 18'56"
  - 第3区(5.1km) 増田 裕美(沖電気宮崎) ★15'58"
  - 第4区(5.9km) 徳丸 幸子(沖電気宮崎) 19'31"
  - 第5区(11.4km) 王 明霞(ニココドー) 35'44"
- ◎は大会新、★は区間新

#### 高校の部

- 1 筑紫女学園(福岡) 1°48'31"
- 2 西京(山口) 1°49'22"
- 3 熊本市立商業(熊本) 1°49'57"
- 4 九州国際大付(福岡) 1°49'58"
- 5 宮崎工業(宮崎) 1°50'14"
- 6 鹿島実業(佐賀) 1°50'50"
- 7 柳川(福岡) 1°51'34"
- 8 松山商業(愛媛) 1°51'58"
- 9 神村学園(鹿児島) 1°52'34"
- 10 近畿大付福山(広島) 1°53'01"
- 11 諫早(長崎) 1°53'18"
- 12 豊見城南(沖縄) 1°54'56"
- 13 山田(高知) 1°55'09"
- 14 大分女子(大分) 1°55'19"
- 15 北九州市選抜(福岡) 1°56'10"
- 16 八頭(鳥取) 1°57'09"
- 17 就実(岡山) 1°57'12"
- 18 開星(鳥根) 2°00'08"

#### 区間賞

- 第1区(4.5km) 藤田 貴子(諫早) 13'51"
- 第2区(5.9km) 吉村かおり(西京) 19'09"
- 第3区(5.1km) 杉尾美由紀(宮崎工) 16'27"
- 第4区(5.9km) 市丸 愛(筑紫女学園) 20'05"
- 第5区(4.9km) 橋本 麻子(筑紫女学園) 16'25"
- 第6区(6.5km) 山元 愛(筑紫女学園) 20'33"



大会新記録でゴールする沖電気宮崎・川上優子

#### 一般・大学の部

### 沖電気宮崎が大会新で3回目の優勝 2位に3分19秒差の圧勝

沖電気宮崎が2区から区間新を含む3つの区間賞で、2位の日本生命に3分19秒差をつける圧勝。1時間43分49秒の大会新記録で4年ぶり3回目の優勝を果たした。

1区は初出場の十八銀行・浦紀子が2km過ぎの上り坂を利用して意欲的に前に出て、天満屋の松尾和美、沖電気の太宅美鈴を振り切り、区間新を打ち立てた。

2区でタスキを受けた直後に2位に上がった沖電気の岡本幸子は1km過ぎで先頭に立ち、快調なペースで独走態勢に。中継所で2位の岩田屋に早くも46秒差をつけた。3区の増田裕美は区間新記録、4区・徳丸幸子も区間賞の快走でさらに差は広がり、アンカー川上優子は余裕の走り。2位に3分以上の大差をつけてゴールテープを切った。

2位以下の争いは熾烈。残り1kmで並ばれた日本生命が岩田屋の猛追をかわして2位。岩田屋が今年のチーム記録を2分47秒縮める健闘で3位。3連覇を狙った天満屋は4位。1区11位と出遅れたニココドーはアンカー王明霞が区間賞を獲得したが、5位にとどまった。

広島日出国・沖電気宮崎監督「(全日本実業団駅伝でも3位に躍進し)今はムードが盛り上がり最高状態だ」

川上優子・沖電気宮崎5区「みんなには次の人が少しでも楽になれるように走ろう、とだけ言っていました」

#### 高校の部

### 筑紫女学園が3年ぶり4回目のV 最終区で西京を逆転

筑紫女学園が中盤から底力を発揮し、先行する西京を最終6区で大逆転して3年ぶり4回目の優勝を飾った。

1区は諫早の藤田貴子が柳川、筑紫女学園、西京などを抑えてトップでタスキを渡した。2区では西京の吉村かおりが一般も含めて10人抜きで首位に。西京は3区の山本奈美枝も区間2位の力走、2位の柳川に約50秒の差をつけた。

しかし、筑紫女学園は9位でタスキを受けた4区の市丸愛が区間賞の快走で2位に浮上。5区の橋本麻子も区間賞を奪い、西京との差を8秒まで縮めた。

最終6区では筑紫女学園の山元愛が経験と力の差をみせつけて逆転、西京に約250mの差をつけてゴールした。

連覇を狙った西京は一時、筑紫女学園に1分以上の大差をつけたが、層の厚さに屈した。2年前の覇者・熊本市立商が1秒差で九国大付をかわし3位に入った。

河村邦彦・筑紫女学園監督「3区終了時で60秒差ぐらいなら逆転も可能だが、2分近い差。後半に選手を集めたとはいえ、正直優勝はあきらめていた」

山元愛・筑紫女学園6区「タスキには、みんなの心が集まっている。その気持ちが精いっぱい走りをさせてくれた。全国大会(1区で32位)で迷惑をかけた先輩に恩返しが出来てホッとした」



最終区で逆転し3年ぶり4回目の優勝をした筑紫女学園・山元愛